

# HAWKER HURRICANE SWEET

MKI

1935年10月6日に初飛行した、イギリス空軍最初の単葉、脚引き込み式の単座戦闘機は、それ迄の複葉戦闘機時代と決別する新しい時代の戦闘機でした。イギリス空軍省はハリケーン戦闘機と命名。1936年6月ホーカー社に第一次量産600機のMk.1を発注しました。生産は後にグロスター社でも行われて、ハリケーンMk.1は、両社合計2059機が生産されました。最初の生産分430機と後に生産した内の25機は、ファブリックウイング（羽布張り翼）タイプと呼ばれ、主翼外翼が羽布張りとなっているのが、特徴です。この455機以外の機体は、アルミニウム合金外板張り主翼のメタルウイングタイプ（金属翼）に変更され生産されました。胴体部分は、複葉機時代の名残を留める金属パイプ組に木骨布張りを組み合わせた古い機体構造で作られており、羽布張り翼型の機体は、最初ワット木製2枚プロペラと多孔式「賢風型」排気管を装備しました。金属翼型は搭載エンジンが、マーリンIIよりマーリンIIIへと換装、それに伴い推力式排気管に変更されました。プロペラは2枚可変ピッチ金属製で、ハランド3枚プロペラの採用により最高速度は、522km/h(4760m)に向上しました。初期に製造された羽布張り翼型の機体にも後に、これら6の換装が次第に施されて性能の向上が図られました。羽布張り翼型の機体は、「静かな戦」「フランスの戦」等の大戦初期に、侵攻するドイツ空軍の新鋭戦闘機、メッソーシュミットBf-109戦闘機や爆撃機を相手に戦闘しますが、苦戦を強いられました。ここで得られた貴重な戦闘は、それに続く「バトル オブブリテン（英国の戦）」の正念場で遺憾なく発揮されて、戦いを勝利へと導いたのです。

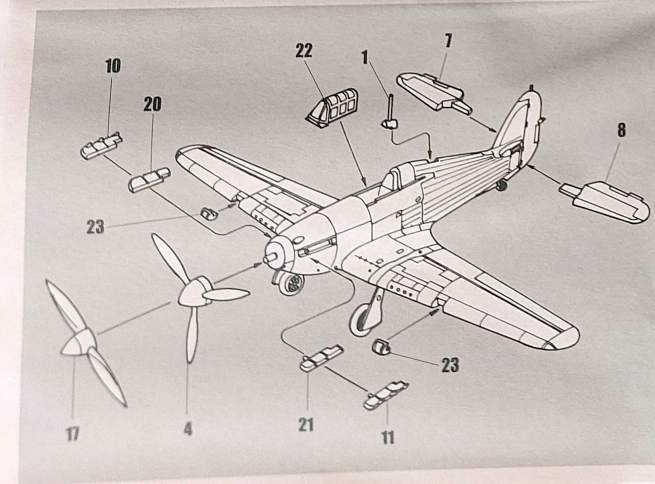
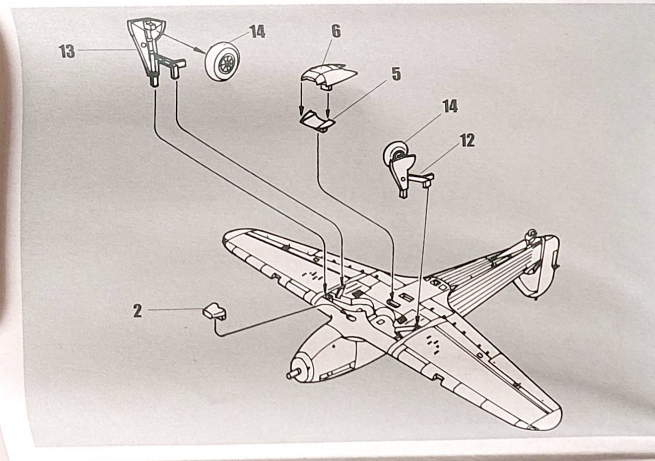
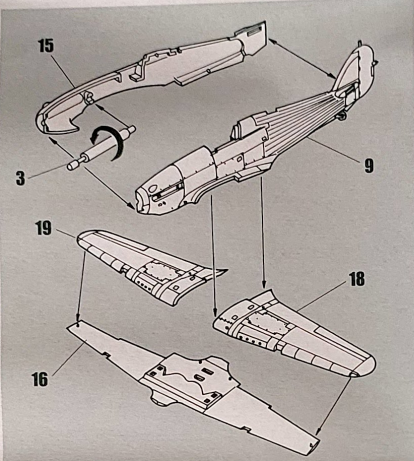
「英国の戦」では、僚友スピットファイア戦闘機の撃墜戦果を上回る戦果を挙げた、ハリケーン戦闘機ですが、それと引き替えに失った損失も英空軍戦闘機の中で一番大きかったと記録されており、ハリケーン戦闘機に関わった人々の苦闘が偲ばれます。大英帝国、存亡の危機に持てる力を十二分に発揮し活躍した、ハリケーン戦闘機でしたが「英国の戦」が終了すると、もはや主力戦闘機の地位は、スピットファイア戦闘機へと移っていました。ハリケーン戦闘機の特徴である分厚い主翼は、20mm機関砲などの強力な武装や爆弾を搭載するに十分な強度とスペースがありました。ハリケーンは地上攻撃機として優れ、活躍の場を北アフリカやビルマ戦線へと移して戦争終結まで活躍しました。

## 〈組立〉

SWEETからお願い

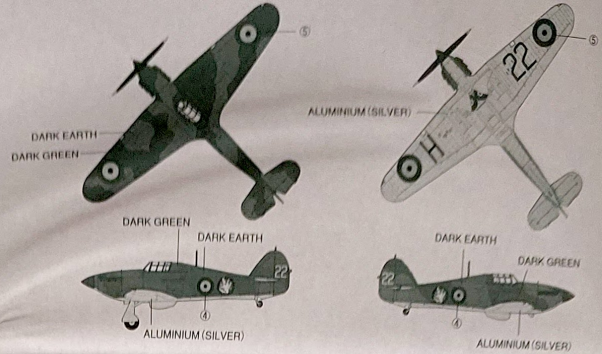
- 接着剤はタミヤセメント（流し込みタイプ）を必ず使用して下さい。デカールの貼り付けには、グゼ産業のマークの軟化剤Mr.マークソフターを必ず使用して下さい。
- キットやSWEETへのご意見ご希望等をお寄せ下さい。製品開発の参考にさせていただきます。
- キットに部品不良品や不足が有りましたら、当社アフターサービス係まで、ご連絡下さい。

〒421-1131  
静岡県志太郡岡部町内谷1633-12  
SWEET アフターサービス係  
TEL & FAX 054-667-1323



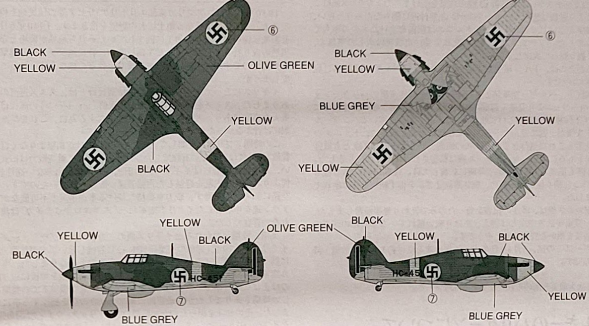
## BELGIUM AIR FORCE (Escadrille 2/12) MAY 1940 at Schaffen

ベルギー空軍 第2戦術機連隊第1大隊第2中隊所属  
1940年5月 シャッフェン基地  
ドイツは1940年5月10日ベルギーに侵攻を開始。ドイツ空軍はベルギー空軍基地を75機の爆撃で襲撃、ベルギー空軍の可動ハリケーン戦闘機11機は、そのほとんどを、最初の空襲にて地上で破壊されます。そして17日にベルギー空軍は消滅します。



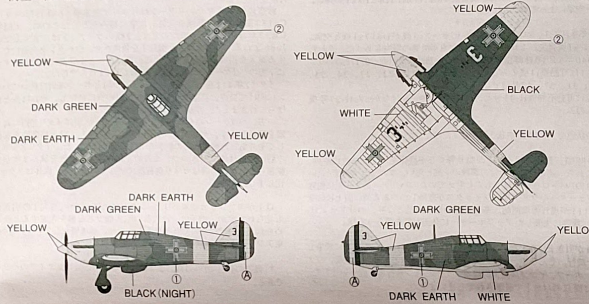
## FINNISH AIR FORCE (LeLv32) SUMMER 1941 at Immola

フィンランド空軍 第32戦術機連隊所属  
1941年夏 インモラ基地  
フィンランド空軍は12機発注して10機（空輸途中2機破損して失う）、1940年3月に受領。ソビエトとの「冬の戦い」には、間に合わず使用されませんでした。ハリケーンが実戦に投入されたのは、ドイツ軍のバルバロッサ作戦にフィンランドが呼応して、ソビエトに参戦した1941年7月以降でしたが実働6機程度では、めざましい戦果は挙げることが出来ませんでした。



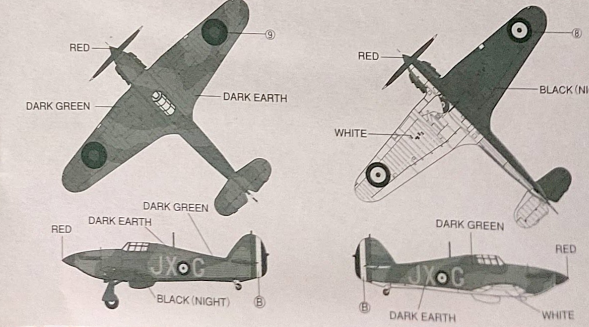
## RUMANIAN AIR FORCE No.53 SQUADRON JUNE 1941 at Mamaia

ルーマニア空軍 第53飛行機連隊所属  
1941年6月 コンスタンツァ ママイア飛行場  
ホリア アガリーチ中尉乗機  
ルーマニア空軍は1940年3月、12機のハリケーン戦闘機を受領。これに3機の捕獲したユーゴスラビアの機体を加えて15機を保有。1940年6月22日のバルバロッサ作戦開始時には、10機が可動しており1941年の始めに掛けて、黒海沿岸の防空の任に就きました。アガリーチ中尉は、1941年6月23日に3機のソビエト爆撃機(SB-3)を撃墜しました。



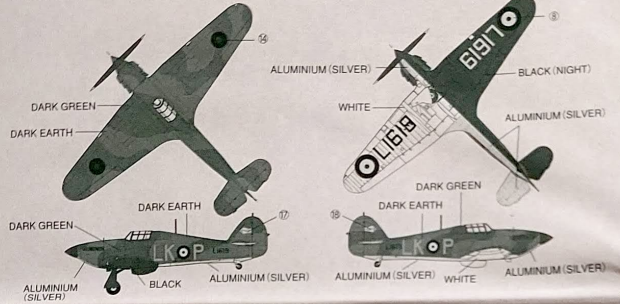
## RAF No.1 SQUADRON (L1679) JX ○ G LATE 1939 at Vassincourt (FRANCE)

イギリス空軍 第1飛行機連隊 (L1679) JX ○ G  
1939年末 ヴァッサンクール基地(フランス)  
ポール リッチー中尉乗機  
この機体は1938年10月、最初に第1飛行隊に支給された14機のハリケーンの内1機で、ホーカー社が生産した最初の量産ロット600機より割り当てられました。リッチー中尉は、この5枚プロペラで羽布張り翼の「オールド プラウG」を操縦して、ドイツ軍のフランスへの電撃戦初日の空戦にて、3機のドルニエDo17爆撃機を撃墜しています。



**5 RAF No.87 SQUADRON (L1619) LK ○ P**  
**AUGUST 1939 at Debden (ENGLAND)**  
**Pilot : Pilot Officer H.J.R. "Guppy" Dunn** This Hurricane later forced landed in Belgium [Kutrijk] on November 10 1939.  
 イギリス空軍 第87飛行隊所属 (L1619) LK ○ P  
 1939年8月 デブデン基地 (イギリス)

この機体 (L1619) は Phoney War [静かな戦い] の1939年11月10日、ベルギー上空の迎撃戦にて、ドルニエDo17爆撃機1機を撃破した(帰路シュトゥットガルト近郊に墜落) ダン少尉機の1939年8月頃の機体塗装です。迎撃の帰路、燃料不足にてベルギーのクートリックに不時着陸した。不時着時の機体は主翼下面のシリアルナンバーは消されて無く、プロペラの先端のキャップは白色に塗られていた様ですが詳細は不明です。



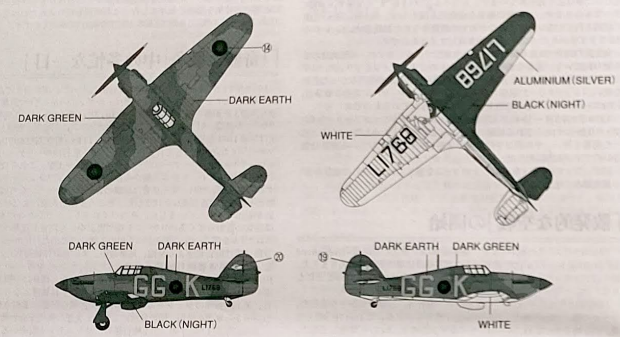
**ハリケーン部品関連表**

PARTS No.	17	4	20,21	10,11
① BELGIUM AIR FORCE	○			○
② FINNISH AIR FORCE		○		
③ RUMANIAN AIR FORCE		○		○
④ RAF No.1 SQN. JX-G (L1679)	○			○
⑤ RAF No.87 SQN. LK-P (L1619)				○
⑥ RAF No.151 SQN. GG-K (L1768)				○
⑦ RAF No.151 SQN. (L1767)				○
⑧ RAF No.501 SQN. SD-A (L2039)		○		○

MAKE A CHOICE YOUR HURRICANE.  
 お好きな機体を選び、それぞれに合った部品を組み立てて下さい。

**6 RAF No.151 SQUADRON (L1768) GG ○ K**  
**MAY 1939 at North Weald (ENGLAND)**  
 イギリス空軍 第151飛行隊所属 (L1768) GG ○ K  
 1939年5月 ノースウィールド基地 (イギリス)

この機体 (L1768) は1939年1月、第151飛行隊に配備されました。塗装は機体下面を白と黒に2分して塗り分け、シリアルナンバーを主翼下面に記入する開戦前の基本的な塗装パターンを表しています。

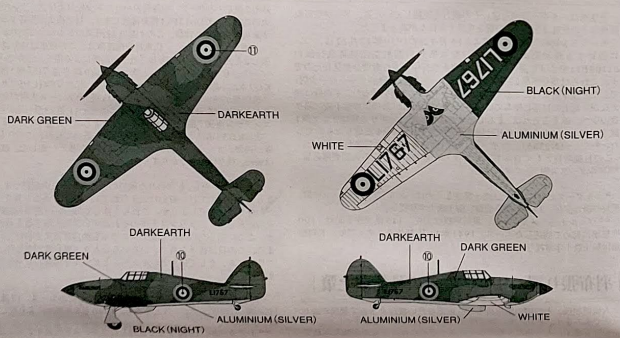


**HAWKER HURRICANE Mk. I Data**  
 (ホーカーハリケーンMk.I 諸元)

- Span (全幅) : 40ft (12.19m)
- Length (全長) : 31ft4in (9.33m)
- Height (全高) : 13ft2in (4.02m)  
Watts propeller vertical
- Weight (重量) : 6499lb (2950kg)  
Normal loading DH-propeller
- Engine (発動機) : Rolls Royce Merlin II (1030hp)
- Max. Speed (最大速度) : 325mph / 15600ft (522km/h 高度4760km)
- Rang (航続距離) : 525miles (845km)
- Armament (武装) : Eight 0.303in Browning machine guns  
with 334 rnds per gun (7.7mm機銃 X 8) 9

**7 RAF No.151 SQUADRON (L1767)**  
**1938-1939 at Martlesham Heath (ENGLAND)**  
 イギリス空軍 第151飛行隊所属 (L1767)  
 1938年-1939年 マートルシャム ヒース基地

この機体は黄色の縁が付いた国路マーク(A1タイプ)を記入した、一番初期の頃の塗装例です。機体下面は銀色/白色/黒色に分別塗装されています。⑥はその後に採用された塗装例です。



**REFERENCE BOOKS**  
 (参考文献)

- Dai Nippon Kaiga CO. Ltd. 1994 (株)大日本絵画  
AERO DETAIL #12 HAWKER HURRICANE  
エロ・ディテール 12 ホーカー・ハリケーン
- Osprey Publishing 1998  
OSPREY AIRCRAFT OF THE ACES #18  
Hurricane Aces 1939-40 by Tony Holmes
- SAM Publications 1999  
Modellers datfile No.2 THE HAWKER HURRICANE  
by Richard A. Franks
- Perry Adams and Air Research Publications 1988  
HURRICANE SQUADRON No.87 Squadron at WAR 1939-1941  
by Perry Adams
- THE CROWOOD PLESS L td.1998  
CROWOOD AVIATION SERIES Hawker HURRICANE  
by Peter Jacobs
- ASTON PUBLICATIONS 1987  
THE HAWKER HURRICANE by Francis K. Mason
- VINTAGE AVIATION PUBLICATIONS LTD. 1978  
Data Plan No.5 HAWKER HURRICANE I  
by Philip J. R. Moyes
- PATRICK STEPHENS LTD. 1969  
FIGHTING COLOURS/RAF Fighter Camouflage and Markings  
1937-1969  
by Michel J. F. Bowyer and Alfred M. Alderson
- Arms & Armour Press 1976  
RAF Museum Series Volume 3  
British Aviation Colours of World War Two  
by John Tanner & RAF MUSEUM
- (株)講談社 1976  
続々ヒコーキの心 佐賀 赤勇 著  
日本語版  
早川書房 1998  
戦闘機(英独航空決戦) 上・下  
レンデイトン 著 内藤 一郎 訳
- 創想社 1961  
航空情報・臨時増刊 No.138  
第2次大戦 イギリス軍用機全般
- 航空ジャーナル 3月号臨時増刊 1976 AJ Cyclone No.4  
W.W.II ドイツ戦闘機隊 「フランス侵襲」 手島 尚
- 航空ジャーナル 1978 別冊 AJ Cyclone No.10  
ヨーロッパ航空戦「オランダ、ベルギー、フランスの崩壊」  
手島 尚

**8 RAF No.501 SQUADRON (L2039) SD ○ A**  
**LATE 1939 at Tangmere (ENGLAND) Pilot : Sqn Ldr Montagu Clube (Commanding Officer)**  
 イギリス空軍 第501飛行隊所属 (L2039) SD ○ A  
 1939年末 タングメア基地 (イギリス) 指揮官 モンタギュー クルーベ少佐

この機は1939年末に着陸破損。後に1941年シーハリケーンMk.Iとして再生されました。  
 機体下面には指揮官機を示すペンタゴンが描かれています。また敵味方の識別をより判りやすくするために、⑥の塗装パターンをベースにして、主翼下面には、青、白、赤の国路マーク(Aタイプ)を、追加して記入する様になりましたが、主翼下面のシリアルナンバーは記入し無くなります。  
 主翼下面にシリアルナンバーを、記入した機体と記入無しの機体が混在した状態は、「フランスの戦い」が終了する頃まで続きます。バトルオブブリテン「英国の戦い」が終了する頃までの、イギリス機の塗装規格は流動的で、変化があつて大変興味深く調査、研究の余地があります。  
 主翼上面、黄色の四角形(デカール)は薄ガソル検知塗料のパッチで、「フランスの戦い」の頃 ドイツ軍が薄ガソルを使用した場合に対応する為、一部の部隊で急遽施されましたが、後に廃止されました。大きさや位置、向き等、使用の有無も、各飛行隊ごとに決められており、統一されていませんでした。

